

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあすなる南陽
(ユニット名)	西通
所在地 (県・市町村名)	山形県南陽市宮内2767番地の15
記入者名 (管理者)	金子 健一
記入日	平成 20 年 8 月 27 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	家庭的な環境と地域住民との交流の下自立した日常生活が営める様。職員と話し合い、理念をつくっている	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ケアカンファレンス時、職員間で確認をし、日常業務の中で、生かせるよう実現に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には、入所時ご説明を申し上げ理解を得ております。又、地域の方々には、来所時理解していただける様、見やすい場所に掲示すると共に、機会をとらえて、ご説明し浸透していくよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近くの畑に来る人や、隣人が散歩している時、隣近所の方々が住居から出入りの際など、挨拶を交わし、施設をいつでも訪問していただけるよう声がけをしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、地区のお祭りなどに参加、又地域の老人会との交流会や地域のボランティアも受け入れ交流を図っている。	○ 更に多く、かかわりが持てるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議委員に、地区長や老人会の役員の方々にお引き受けをいただいているので、会議の中で話し合い取り組んで行きたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目については、職員全員で評価し問題点を共有化する事で、みんなで改善し統一したケアを心掛けている。	○	外部評価を受け入れ、改善し、質の向上、理念の向上に努めて生きたい。又、定期的な外部評価だけでなく、常に外部から評価を受けているとの認識の基、取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施しており、状況報告をしております。又、その都度テーマを変えて話し合いをし、評価をいただき、改善に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と施設との情報交換はされております。相談等にも出向いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会参加により知識を深めるよう努力している。その該当者には、身元引受人と利用者含め、双方の意向をききながら、トラブルのない様に、その都度支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修により職員全員が認識しており、虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時管理者が家族に書面を読んで頂きながら説明を行っている。なるべく疑問点が無きよう、きめ細やかにご説明申し上げております。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見があつた場合は、個別に対応し運営に反映している。改善に向け利用者が納得できる様に対応し家族にも伝え相談もしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書発送時、機関紙・近況報告を同封し生活の状況を伝えている。又、面会時には、かかさず随時報告している。緊急時は電話で連絡し来所していただくこともある。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から希望、意見があつた場合は、カンファレンス等で職員に周知し、検討改善を図っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス時や日々意見を収集し検討反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院時、外出する行事、ボランティアの受け入れ等、職員の手が必要な時は、随時勤務調整をし利用者の対応に充足する様努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>担当者は決めているが、好みもあるのでスムーズな対応ができる様配慮しているが、なるべくどの職員も対応できる様な取り組みをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修内容を把握し、随時必要な研修には参加している。研修報告の時間をとり、他の職員の向上に努めている。	○ 研修報告、施設での研修等もう少し時間をとって取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホームの方々との支部会参加、山形県GH協議会に、入会し、今回初めて、交換実習に2名参加し、意識の向上に努めている。又、CMの勉強会にて処遇などの事例を基に情報交換を行っている。	○ 今後交換実習を受け入れる側に立てる様、今以上に質の向上に努めたい。各事業所間の交流や相談など、更に深められる様努力したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に職員への声掛けを行い、コミュニケーションをとり、状況を把握している。問題の訴えがある場合は、話しやすい環境を作っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	最低1人1役制を取っており、担当する役割を責任持つて伝える様、又、個々のスキルアップにつながる様に配慮している。	○ 自分の役割だけでなく全て把握出来る様他の職員への働き掛けや、意識の向上につなげられる環境を作りたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の見学時より不安なく入所できる様に、心配な面を具体的に聞き取る努力をしている。よく聞いてさしあげできる限り、希望にそえる方向性を考えていく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の聞き取りは、アセスメント表、フェイスシートにのつとり、できるだけ、詳しく聞き、不安や心配をもたないようにしている。又、入所後1W位は、様子を伝え、安心していただける様努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、何をしてほしいのか、見極められる努力をしている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	なるべく利用者の意志を尊重し、料理の仕方、昔の風習などを聞き取り、昔を思い出しながら生活したり、苦労話を聞き共感したり、共に生活していることを感じてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームのスタッフにたよりすぎない様、食事の事、買物の希望、外出の希望、病状など伝え、なるべく出向いてもらう様にしている。	○	あずけたまま、疎遠にならない様に、病状の心配な方について、通院の付き添いなど、時間をとって頂くようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	1人1人の様子を家族に毎月おたより等で知らせ、お互いの立場も理解しながら、援助できる様スタッフも配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や親戚など、自由に来所できる様に開放しており、本人がいきいきと過せる様努力している。	○	友人など気軽に来れる様解放している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	友達を作られる様、利用者同志の会話が成り立つ様助言し、いい関係が作れる努力をしている。(1人にならない様配慮している)	○	お互い、苦手なところを助けあつていける様、関係作りに努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方でも、病状などお聞きし、状況の把握がなるべくできる様努力している。	○	必要時再入所できる様、こちらの情報も伝えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意志を尊重し、本人が何を望んでいるか把握し、それに伴った援助を行なっている。意向を聞き出せる様な、声がけ、聞き方の努力をしている。	○	時間のゆるす限り、本人と接する努力をスタッフは行い、個人の気持ちの安定に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔どんな、職業をしていたか、得意な事は何だったのか、家族の話など、昔のことを折りにふれ聞きとり、自分が、生き生きと過してきた時代の話をしてもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の日課の中で無理なく、手伝い等をしてもらいながら、常に行動や言動の中で個々の変化を把握できる様にしている。	○	1日の中で必要時、バイタル測定、特記を記録する事に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時、介護計画の必要性を伝え、課題を家族と共に話し合い、作成する様努力している。又、更新時毎、新たな課題、意見などが無い話し合い、計画を作成している。	○	毎月のカンファレンスの中で新たな問題をみつけプランに反映している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新前、3ヶ月毎(モニタリング時)に、必ず見直しをしている。その都度、家族同意を得てスタッフにも周知できる様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを元に毎日個別記録に本人の様子を記入しており、変化がわかる様努め、カンファレンスの際の参考になっている。	○	具体的な記述に欠ける部分あり、さらに充実した内容にする。プランにそった記録の仕方に慣れる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	ボランティアの受け入れは、積極的に行っている。避難訓練で、消防の方と共に問題点を検討している。無外の時などは、警察に通報し、情報の共有に努めている。	○	図書館、公民館の活用については、遠方であり、その他、利用については、具体的に調べていない為、今後取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	以前担当だったケアマネジャーにも、問題点や変化が生じた時、情報交換、相談等随時行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の活動、後見人、権利擁護について情報の共有を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのDrとの関係を考慮している。かかりつけ医には、受診報告書を持参し、状態の把握、伝達に努めている。Drにも意見を求め、さらに必要事項について、検討できる様心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	専門医との情報交換の必要性・スタッフの認識の向上
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	地域の看護職とは、最近少しずつ接点が出てきた。これからのアプローチ必要、積極的なかわりあいも必要
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	さらなる連携の強化に努めたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	家族が忙しく、本人の病状を説明しても、入院、通院に関して、消極的な部分あり、今後家族に対しての認識強化のアプローチ必要、又、主治医とも気軽に相談できるような関係作りが必要
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	グループホーム内だけでなく組織全体で、どう取り組むか、十分な検討が必要
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いには充分注意をはらっている。プライバシーの確保については、徹底されている。個々の尊厳を充分考慮し支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人主体で取り組んでいる。意志伝達困難な利用者さんには繰り返しわかりやすい言葉を選び納得していただく努力をしている。	○ 本人の顔色をみて、思いがわかる様スタッフの観察力、気づきの力を育てていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせたスケジュールに心がけ、思いを引き出す努力をして、希望にそって支援している。	○ つい、スタッフ側からのアプローチが強くなりがちなので、利用者サイドに立つた物の見方、かかわり方に努力したい。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が希望する美容室へは、個別に行けるよう支援している。身だしなみについても、ご本人の望みにそって支援している。	○ お化粧する時間をとつたり、夏祭りでは、好みの浴衣を着ていただいて参加出来る様支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等職員と一緒にできる様支援している。調理についても得意な部門を担当してもらえる様支援している。	○ おやつ作り、カレーライス、焼きそば、など最初から最後まで取り組める企画をしているが、今後メニューを増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつについては個々に好みに合せている。行事では、みんなで作ったウメ酒やビールを提供し喜んでいただいています。タバコについては、現在1名その都度対応している。	○ 今後共有スペースで、お茶、コーヒーなど自由に作って飲める空間を提供していきたい。(安全に注意しながら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者さんそれぞれの排泄パターンを把握し対応している。排便については、処方されている下剤でその方にあわせコントロールしている。	○	全ての方にトイレ(PTイレ)での排泄を促している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴予定者は決まっていますが、ご本人の希望や状況に応じて変更している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人のペース、健康状態に合わせて休んでいただく様心掛けしている。夜間の不安な気持ちを心掛けやスキンシップで軽減するよう支援している。	○	夜間、眠れない方が、どうして眠れないか、日中の活動状況、最近の様子を振り返り、把握する様努力したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や能力をもとに、得意な事をみつけなるべく楽しめる様工夫している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の力に応じ、お金を管理できる人は、金銭を所持し自由に使える様に支援している。その他の人に関しても、近隣のお祭り等への参加した時にお賽銭や小銭などを持ち好きな物を買ったりしてお金を使う機会をもうけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑へでかけたり、買い物に同行したり支援している。	○	同じ人が対象にならない様、メンバーを変えても対応できる様な工夫をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なるべく外に出かける機会をもてる様に毎月行事予定の中に外出を必ず取り入れている。(花見・歌謡ショー・お祭り・花火見学等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話せる利用者には、いつでも電話できる様支援している。又、年賀状や暑中見舞い等で自筆のはがきを出したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間・早朝以外は」自由に出入りできる様工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを周知しており、身体拘束をしないケアにきちんと取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	各居室には、鍵は設けておらず、玄関についても、外部からの自由な訪問等ができ、又、防災上の安全の為に、かけない様に取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人毎自室にいる時はノックや声がけをしてから入室し、プライバシーに配慮しながら安全面を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人1人の状態にあわせて対応している。	○	浴室、洗面所、などに置いてある薬品、洗剤等あるが、今のところ個別対応で、問題なく過されている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や資料等をもとに情報を職員間で回覧し知識を学び、1人1人の状態に応じ事故防止に取り組んでいる。	○	個別に行動パターンを知り、怪我のない様に、巡視、見守りなど努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故防止マニュアルを作成している。又、救命救急の講習なども職員がきちんと受け対応できる様にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画等マニュアルを作成し、対応できる様にしている。又、夜間を想定した避難訓練なども、消防署員の立会いのもと実施している。地域の協力についても地区長にお願いし、協力を得られる体制を築いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	1人1人、リスクの度合は異なるが、個人の状態にあわせ、家族に同意してもらい、個別対応している。	○	家族との話し合い後、スタッフに周知してもらい、同じ対応ができる様努力している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝バイタルチェック時や普段の様子と変化があれば職員同志情報共有し、主治医に相談し指示を仰いでいる。	○	スタッフ同志、情報の共有に努めている。(申し送り・記録等)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方前にも、1人1人誤薬がない様確認しており、状態把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分をなるべく摂っていただき自然排便を促している。、定期的に出ない方には、個別に下剤等で対応している。	○	体を動かす様な工夫が更に必要なので今後検討必要。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所に誘導しで口腔ケアを行っている。(個別に介助している。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎、ごはんの量、おかずの量、を加減しており水分も必要量摂取されているかチェックしている。特に夏場は、寒天、ゼリーなどで水分量を確保している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対策マニュアルあり対応を実行している。食前の手洗い、外出後のうがいなども実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用後の食器は煮沸し、ふきん、まな板などの、調理用具は、次亜鉛素酸で消毒しており、食材は毎日旬のものを買って物している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口の戸に季節の花の折り紙をはったり、下駄箱の上に、利用者の方々の作品をかざったりして安心して出入りができよう、明るい雰囲気作りに心がけております。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・廊下・ホール等に利用者の方々の作品をかざったり、行事等で撮った写真にコメントを添えて、はったりして、利用者の方々と作品や写真を見て話をし、コミュニケーションをとっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・ホールの好きなどころで談話されたりテレビを見たりできる様に、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の使い慣れた物を使用し、レクなどで、作ったりしている作品を、飾ったりして安心して過せるようにしております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	におい等は、家族の方と相談し芳香剤を使用したり、窓をこまめに開閉し対応しております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレに手すりをつけ、安心して使用できるようにしたり、食堂のテーブル等に名前を貼ったりして、自分の居場所がわかるようにしております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人のわかる力を活かして、洗濯物をたたんでいただいたり、食事の盛り付けをお願いしたりしております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	階段やスロープに手すりをつけ、安全に出入りできるようにしております。花壇や畑を作り花をうえて楽しんだり、野菜の収穫を楽しんだりしております。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

機能訓練と情緒の安定を図る為、週1回ミュージックケアを実践している。少しずつ個人の良さも見えてきてかわりの中でプラスになる面が見えてきている。
なるべく1人1人得意な面がみつけられる様、曲を変え、楽器を変え取り組んでいる。